

令和3年度第1回宮城県職業能力開発審議会の御提案・御提言

資料4

NO	委員名	御提案・御提言内容（要旨）	議事録頁	御提案・御提言に対する宮城県の考え等
1	小林委員	名工会が開催しているものづくり教室について、年間通して活動できるよう支援していただきたい。 また、卓越技能者のものづくり教室などの事業を自助努力で行っているが、これらの活動についても支援いただきたい。	5	ものづくり教室の開催時期については、名工会事務局と受入側の各小中学校で日程調整されているところと承知しており、年間を通じた活動について、名工会事務局と相談、調整してまいります。 また、名工会事業費の補助については、引き続き支援に努めてまいります。 (関係箇所:「基本的方向性4 施策2」)
2	佐竹委員	コロナ禍で女性の就業が低下しているため、次期計画では対策を実施していただきたい。	5	コロナ禍の影響に注視しながら、女性の多様な課題やニーズを踏まえた職業訓練を実施するとともに、マザーズハローワーク青葉やみやぎジョブカフェ等の関係機関の連携・活用により、就職支援について取り組むなど、女性の就業率向上に向けた施策を展開してまいります。 (関係箇所:「基本的方向性3 施策2」)
3	内藤特別委員	小中学生向け製造業の認知度の向上の冊子・動画作成といった取組は、早い段階での職業観の醸成等に有効であり、引き続き強化していただきたい。	7	具体的な活用事例の紹介などを通じて、学校における活用の拡大を図るとともに、現在、行っている広報誌「オガーレ！ACE」に関するアンケートの意見なども参考にしながら、引き続き、広報誌や製造業認知度向上動画を活用した、児童・生徒等の職業観の醸成に努めてまいります。 (関係箇所:「基本的方向性1 施策1」・「基本的方向性3 施策3」・「基本的方向性4 施策2」)
4	齋藤委員	離職率に関しては、仕事に対する本人のイメージと実際の企業のミスマッチがあって、これを解消するのが重要であり、地域産業の認知度向上の取組を具体的に進めていくことが非常に大事ではないか。	9	児童・生徒等の発達段階に応じた社会人との対話等によるキャリア教育の推進や、インターンシップ、工場見学会などを通じて、明確な職業観・勤労観を醸成するとともに、企業・業界に対する理解を深めることなどにより、若者の早期離職の防止に努めてまいります。
5	田邊会長	若者の早期離職に関しては、イメージ的なものが先行しているのかもしれない。若者に理解してもらうための情報提供をこれまで以上に行う必要があるのではないか。	10	(関係箇所:「基本的方向性1 施策1」・「基本的方向性3 施策3」・「基本的方向性4 施策2」)
6	佐竹委員	働く側の意見を反映できるような働きやすい環境づくりも重要であり、そうした取組に対する支援制度や周知が必要ではないか。	11	広報誌「オガーレ！ACE」による働く側の意見の紹介や、働き方改革に取り組む企業の事例についてホームページで情報発信するとともに、工場見学会やインターンシップの参加生徒・学生のアンケート調査結果を企業へフィードバックするなど、人材確保も意識した働きやすい環境づくりを支援してまいります。 (関係箇所:「基本的方向性1 施策3」)
7	大泉委員	企業への人材育成支援に当たっては、今後の新型コロナの影響を注視していただきたい。	12	企業や業界団体の人材育成支援については、コロナ禍の影響に注視しながら、今後のデジタル化の進展等に対応するため、ITスキルに対応する訓練コースの新設やオンライン訓練の実施など、企業等のニーズを踏まえた訓練に取り組みます。 また、民間の認定職業訓練施設に対し、運営等に要する費用を支援するなど、認定職業訓練の環境整備・質的向上に取り組みます。 (関係箇所:「基本的方向性1 施策2, 施策3」・「基本的方向性2 施策1」)
8	大泉委員	計画の策定に当たっては、仙台圏と仙台圏以外といった視点をもう少し入れていただきたい。	12	各高等技術専門学校で実施する離職者等再就職訓練では、県内各地域の求職状況のほか、地域のニーズを踏まえた独自の訓練コースの設定に努めます。 また、在職者訓練では、レディメイド型の訓練に加え、オーダーメイド型訓練を実施するなど、今後も各地域の企業ニーズを踏まえた訓練を実施します。 (関係箇所:「基本的方向性1 施策2, 施策3」)
9	大泉委員	日本の雇用がこれまで非正規雇用に頼ってきたことは否めず、正規雇用に向けた職業訓練と就労支援について、次期計画でどう取り組んでいくか考える必要があるのではないか。	12	正規雇用を希望しながらも不安定な就労形態にある非正規雇用労働者の正規雇用への転換等、安定就労に向けたセミナー、職業訓練や就職支援に一体的に取り組みます。 (関係箇所:「基本的方向性3 施策1」)
10	内藤特別委員	この基本的方向性の下で、より実現性のある計画にしていただきたい。	13	より実現性のある計画にするため、各施策の取組状況や事業実績などについて、宮城県職業能力開発審議会の意見を伺いながら、PDCAサイクルによる計画の進捗管理を行います。 (関係箇所:計画全般)

令和3年度第1回宮城県職業能力開発審議会の御提案・御提言

資料4

NO	委員名	御提言・御提案内容（要旨）	議事録頁	御提案・御提言に対する宮城県の考え等
11	熊谷委員	女性の職業能力開発について、ライフスタイルやニーズばかりに配慮しなくてもよいのではないか。例えば、体力に自信のない方々の長期的な就労支援という連携もあるのではないか。	14	女性の多様な課題やニーズを踏まえた対策を講ずる必要があることから、キャリアアップや正規雇用への転換に役立つ技能習得のための訓練の実施に努めるほか、育児・介護中の女性も参加しやすいよう、短期間・短時間のコースの設定や託児サービス、オンラインの活用に取り組みます。 また、マザーズハローワーク青葉やみやぎジョブカフェ等の関係機関の連携・活用による就職支援についても取り組んでまいります。 (関係箇所:「基本的方向性3 施策2」)
12	熊谷委員	IoTに関する産業人材の育成を充実させる必要があるのではないか。	14	高等技術専門校の施設内訓練、在職者訓練や離職者等再就職訓練について、IoTの進展など時代の変化や企業のニーズに応じた訓練内容の見直しを行うほか、IT技能向上に向けた研修による指導員のスキルアップや民間講師の活用を図るなど、デジタル人材育成の充実にも努めてまいります。 (関係箇所:「基本的方向性2」)
13	熊谷委員	若者の職業能力開発は、若者が若者に教えるというやり方もあるのではないか。	15	技能向上に取り組む企業や個人を紹介している広報誌「技能検定NEWS」では、企業内の若者同士で、練習会等を実施している事例などを紹介しているほか、みやぎクラフトマン21事業では、高校生が地元児童に対し、ものづくり技術を教える機会を設け、ものづくり技術への興味・関心を高める取り組みを行っています。今後もこのような若者に対する技能意識の啓発や職業能力開発の支援に取り組めます。 (関係箇所:「基本的方向性1 施策3」・「基本的方向性4」)
14	熊谷委員	技能の継承と振興の取組として、業界団体のボランティア活動なども活かせるのではないか。	15	企業や業界団体が実施している技能大会などのものづくりに関する事業については、業界団体等と協力・連携しながら、若年者にもものづくり分野の魅力を発信するなど技能の継承・振興に努めます。 (関係箇所:「基本的方向性4」)
15	後藤委員	高技専の再編に当たっては、現状の環境だけで決めるのではなく、企業のニーズを見ながら、伝承させなければならない技能・技術を教える場所は残していただきたい。	16	高等技術専門校再編整備基本計画では、地域・企業のニーズを踏まえて訓練を実施することとしており、令和10年4月の新設校開校に向けて、業界団体の意見も踏まえながら調整・整備を進めます。 (関係箇所:「基本的方向性1 施策2」)
16	後藤委員	技能検定の要となる職業能力開発協会は、高技専と同じ場所にあるのが産業人材育成という観点からも有意義ではないか。	16	県職業能力開発協会とは、技能検定をはじめとして幅広い職業能力開発施策において緊密に連携しており、ご意見も踏まえ、今後も、産業人材育成に関して一層の連携強化を図ってまいります。 (関係箇所:「基本的方向性4」)
17	吉野委員	ポリテクセンターが行っている職業訓練については、次期計画においても役割分担しながら、労働局や宮城県と連携し、進めていく必要がある。	17	宮城職業能力開発促進センター(ポリテクセンター)、東北職業能力開発大学校、宮城労働局やハローワーク等の関係機関の連携のもと、適切な役割分担を図りながら、職業能力開発施策について取り組めます。 (関係箇所:計画全般)
18	小林委員	技能の継承と振興について、もう少し具体的にどのような支援ができるのか提示していただきたい。	17	名工会や技能士会連合会の活動支援や各種表彰制度の活用による優秀な技能者や事業所への表彰を行うことにより、技能に対する県民の理解を深め、技能者自身の意欲の向上を図ります。 また、高等学校や企業へ熟練技能士を派遣する「ものづくりマイスター」等の活用支援、広報誌「オガレ！ACE」により卓越技能者を紹介するなど、若年者への技能の継承に資する取組を継続するほか、関係機関と協力・連携していきます。 (関係箇所:「基本的方向性4」)